

2008年度受託研究概要報告

平成20年度「神戸ルミナリエ」新グッズのアイデア・デザイン・商品開発について

研究メンバー

かわいひろゆき デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授

委託者

財団法人神戸国際観光コンベンション協会

1 あらまし

創造都市戦略としての「『デザイン都市・神戸』を推進するための基本的方針」に基づき、本学ビジュアルデザイン学科の学生たちとともに平成20年度「神戸ルミナリエ」の新グッズ提案とパッケージ・デザインを開発し、広域的なPRに資することとなった。このプロジェクトは、ポスター、チラシのデザイン開発を受け、3ヶ月遅れで進められた。

2 業務内容

阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂と被災地の復興を願う「神戸ルミナリエ」は、今年で14年目を迎えた。この間、全国的に大規模な電飾イベントが増え、神戸ルミナリエもその中のひとつになりつつあった。そこで、本年はほかのイベントとの差別化が求められ、震災の鎮魂と復興という神戸ルミナリエの原点に今一度立ち返り、デザインの開発が進められた。

一方で、黒地にルミナリエの写真という長年慣れ親しまれた象徴的なビジュアルイメージは踏襲したほうが効果的であると判断された。

基本になるメインビジュアルは、黒地に無数の金色のドットで光のアーチを表現した。金色のドットは一人ひとりの鎮魂の思いであり、また、震災を乗り越えて街の復興に尽力した神戸市民一人ひとりの人生ドラマの輝きを象徴している。

以上のポスターデザインの基本的流れを踏まえ、新グッズのデザイン開発が進められた。

9月8日（月）に3名の神戸ルミナリエ組織委員会の方々からオリエンテーションがあり、そのなかで、グッズの開発アイテムを防災グッズに絞ろうというアイデアが出され、全体の方針が確認された。その後何度かの学内打合せの後、9月17日（水）に1回目のプレゼンテーションが行われた。この時点で、防

災グッズのアイテムが4案とクリアファイル2案に絞られ、さらに具体的なパッケージ・デザインの開発が進められた。以後、少しずつ完成度を高め、10月10日（金）印刷入稿となり、校正を経て10月末に納品となった。

今回もポスターの時と同様に、11月18日（火）に市役所の記者クラブにて記者発表が行われ、学生たちが記者たちの質問に対して個々のデザインしたグッズのコンセプトを語った。

3 まとめ

個々の制作物をまとめておく。防災グッズとしては、耐震振動吸収シート（竹内香織）、マルチハンディライト（谷口智美）、携帯チャージャーセット（柘津明日香）、防災セットボックス（永田亜希）、そしてクリアファイル（戸井由香里）。

制作期間中、神戸ルミナリエ組織委員会の方々との打合せが頻繁に行われたため、学生ともども、神戸ルミナリエの現状が深く理解できた。また、デザイン・コンセプトをしっかり提示でき、表現に反映させることができたのも大きな成果であった。加えて、記者発表で学生がデザイン意図などを端的な言葉で表現する機会が持てたことは、またとない体験となった。

さらに、3名の学生が期間中に現場での販売に従事し、うち2名が年を開けての「1.17のつどい」にボランティア参加した。このように、学生の中から、震災を伝えていこうという機運が生まれてきたことは、社会連携の副次的ではあるが、大きな成果であると考えている。



写真1 ルミナリエグッズの打ち合わせ風景



写真2 ルミナリエグッズ記者発表



写真3 ルミナリエグッズとデザインを担当した学生たち